

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所研究員が取り組むYYプロジェクトが「地域づくり」8月号に掲載

2020年8月に、本学研究機構環境技術研究所東村篤研究員（元本学特任教授）が取り組んでおります、認知症対応木製パズルをツールとしたYYプロジェクトの活動が地域活性化センター情報誌「地域づくり」8月号に紹介されました。

詳細は、地域活性化センター「地域づくり」8月号をご覧ください。

URLは <https://www.jcrd.jp/publications/chiikizukuri/2020/aug/>

経緯：

厚生労働省の「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(「新オレンジプラン」)に基づき、三重県南勢地域に「認知症キャラバン・メイト南勢地区連絡会」が2017(平成29)年5月15日、関係市町や医療・介護施設、伊勢まごころ市民後見センターいせ、協栄学園、エーザイなどの賛同・協力を得て設立されました。

活動経過：

連絡会の設立と同時に、循環型の地域社会構築を目的とした「YYプロジェクト」もスタート。木製パズルをツールとした認知症対応活動として、認知症サポーター養成講座にとどまらず、「大人のパズる広場～シニアのための脳トレ～」を各地で展開しています。元になったものは研究機構関孝和数学研究所の協力を得て「Yパズル」を、伝統ある伊勢市高柳の夜店「四日市大学の日」に出品したところ、これが人気を博し大盛況となったことでした。

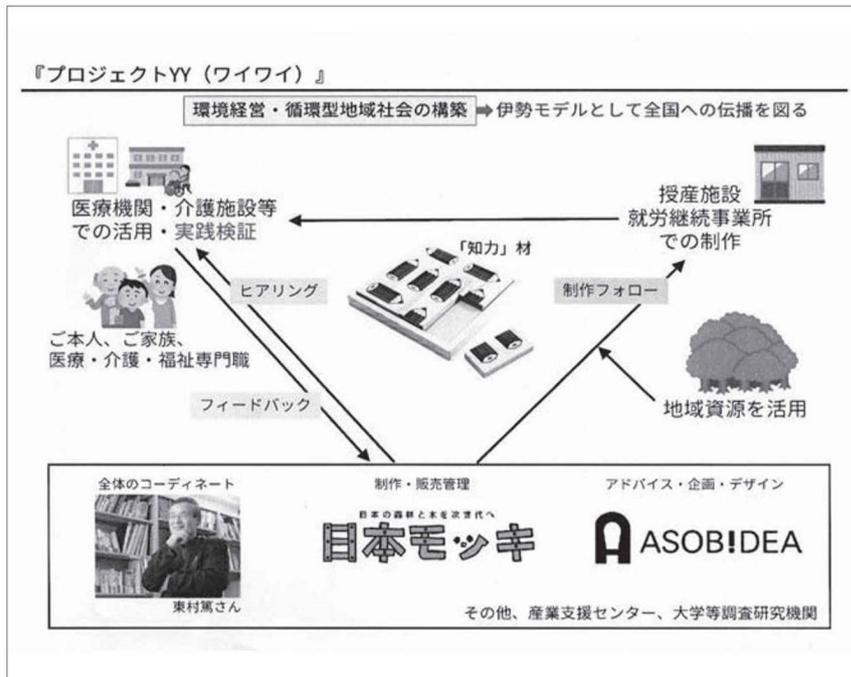
以来、夜店ででの出品がパズルデザイナーでアソビディア代表の山田力志氏の目にとまるようになり、共同で活動することになりました。そこに起業して間もない「日本モッキ」の中山拓代表が加わり、YYプロジェクトが始動したのです。本プロジェクトは、2018(平成30)年度伊勢市活性化活動事業補助金補助事業に採択され、今後の実践・検証を踏まえ、「伊勢モデル」として全国各地に広めることを目指しています。

今後の課題：

これまでの活動を通じ、幾つかのデイケア介護施設などで「パズる広場」を行ってきており、施設管理者側(介護職員や看護職員)と利用者側(高齢者)の双方から様々な意見をいただいております。これらをフィードバックして現場に合ったパズルを制作していくことがメンバー共通の課題です。また、利用者に飽きられてしまわないように、パズルが五つ完成するたびにメダルがもらえたり、パズルの完成を「四国八十八カ所巡り」になぞらえたスタンプラリーにしたりするなど、モチベーションをアップさせる仕組みづくりが課題になっています。



脳トレする高齢者との「パズる広場」風景



YYプロジェクトの概要